

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170401806), 法人名 (株式会社 風和里), 事業所名 (グループホーム ふわり新発寒 2階), 所在地 (札幌市手稲区新発寒6条9丁目4-3), 自己評価作成日 (令和2年9月30日), 評価結果市町村受理日 (令和2年11月4日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170401806-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年10月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても今までの暮らしの延長として地域の中で今出来る事を生かし、生活の中に役割を持ってごく普通の生活の場として一人一人の意思を尊重し家庭的な関係と雰囲気の中でこれまでの生活が継続される様心がけている。スタッフ間で意見交換しやすく、それぞれの得意な事を活かし資格取得や研修を受けやすい様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのバス停から5分程で、公共施設や金融機関、買い物施設のあるエリアに隣接しながら、緑豊かで手稲山も望まれ、近くの公園や河川防波堤の遊歩道は利用者の散歩コースとなる恵まれた環境である。現在コロナ禍で外出を自粛しており、遊歩道の散歩は唯一利用者にとっての気分転換の機会となり、お月見にはススキや花を摘んで事業所に飾り、日本の風習を彩っている。面会出来ない不安を利用者に抱かせない様に、感染症防止対策に万全を期して家族との親睦を叶えている。更に、屋内でも楽しめるバレンタイン、七夕、敬老会、ハロウィンなどの季節行事を充実させ、生き生きと持てる力を発揮して、役割や生きがいのある生活を送れる様に支援している。理念の「ひとりひとりの意思を尊重し・・・共に笑顔でゆったりと・・・」を主軸に、職員の価値観を決して押し付けず、利用者の自己判断や決定を促す様な聞き役に努め、思いや意向に添える本人本位のケアの実践に取り組んでいる。また、職員の気持ちや工夫を具体的に記録に残し、評価や今後の課題に繋げ、介護計画の見直しに生かす等、カンファレンスにおける職員の意見反映も優れている。開設から15年目を迎える事業所には長期勤続者や有資格者の職員が多く、現場力や現場感覚を更に磨き、課題解決へのノウハウを身につけ、安定感と安心感に包まれたサービスを提供している。事業所は、外部評価をあえて毎年受審する事を基準とし、サービスの質、職員の資質向上に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff efforts.

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念をスタッフの目に触れる所に掲げサービス内容に反映させている	事業所が目指すサービスのあり方を理念に示し、掲示する事で日常的に生かす姿勢が窺える。新人研修で理念の意義を学び、申し送り時や会議でケアの実践を振り返り、理念の意識付けに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は中止になっていますが地域の幼稚園と定期的に交流し町内のイベントにも参加している	コロナ禍で地域行事の参加や交流は厳しい現況であるが、毎日のゴミ出しや回覧板を回す際は近隣住民と挨拶を交わしている。不要になった介護用品や衣類の寄付や養護学校の実習生の訪問など、関係を深める働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の公園にお散歩、ゴミ捨てやお買物を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様に参加して頂き必ずご意見等はないかお伺いし意見交換を行いサービス向上に活かしている	今年の2月の運営推進会議から書面会議となっている。事業所の運営状況に加えて、各メンバーには事前に意見、要望、情報を聞き取り議事録に記載し、情報の共有を図り、運営に生かしている。議事録は全家族に配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、本社統括部長が行っている	行政とは主に本社統括部長が中心となり関わっている。コロナ禍で市の管理者会議は休止であるが、区は社協とのリモート会議が実施され情報の共有が図られている。実地指導では適切な助言を受け、業務改善に生かされるなど、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チェックリストや研修を行い自分の言動を振り返られる内容にして意識を持ち取り組んでいる	身体拘束等適正化指針を整備し、運営推進会議内に委員会を設置し、研修会も同時に行っている。虐待事例シートやチェックシートを活用し、正しいケアのあり方を学び、スピーチロックなどの気になる言葉遣いや行動についても会議で確認し、職員相互に注意し合いながら、その排除に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックリストを活用し意識を持ち防止に努めている		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	情報の共有と必要な方へいつでも活用出来る様に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族様にご理解して頂けるよう十分な説明を行う様に努め、いつでも聞きやすい様なお声掛けをしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人やご家族とお話した内容を共有している。なるべく会話が出来る機会を持っている	コロナ禍で不安を感じていると思われる家族とは、訪問時、電話、FAXなどで意思の疎通を密に図り、意見や要望が出された時は改善に向け取り組んでいる。写真掲載の「ひなたぼっこ日和」に個別の通信を毎月送付し、近況等を詳細に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個別面談などで意見交換が出来る場所を設けている	日常の各場面や毎月のユニット会議では、職員の意見や提案を聴取し、ケアや就労環境などの改善に反映させている。管理者は個人面談の機会を設け意見の表出に努め、本社統括部長も頻りに訪問し管理者と連携を図り、職員の働く意欲に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2回自己評価を行いそれに基づき面談し意見や提案を出来る機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を積極的に受けられる様に優先的に調整している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所などと交流が現在中止している。電話などで情報交換している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	馴染みの関係を築き信頼関係を深め伝えやすい雰囲気を作れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています	何でも話会い伝えやすい雰囲気作りに務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応が出来る様にコミュニケーションをはかり見極められるよう皆で情報を共有し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に安心して一緒に生活が出来るよう関係作りに務めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況を共有し良い関係が築ける様努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みがある人や物、場所を思い出したりお電話などで交流が途切れない様に支援している	現在は外出や面会を自粛しているが、高齢化に伴い外出希望者が少ない。家族や地元の友人、元職場の同僚などから電話を頂き、親睦を深めている。毎日、朝日に向かって拝む、朝刊を読む、ヤクルトを飲むなどの生活習慣の継続を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に話題や場所の提供を心掛けている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係を継続出来る様に務めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に思い等を伝えて頂ける声掛けをしご自分で選択して頂けるようにしている。決めつけない柔軟な対応を心掛けている	会話が可能な利用者が殆どで、言動の背景などを察しながら、生き方や生活の仕方を推し量り、利用者の意思を尊重する支援に努めている。困難な場合でも、生活歴、職歴、家族からの情報を判断材料として生かし検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を尊重しこれまでの生活歴等共有し努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人がその日の状態に合わせて生活する事が出来る様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に情報収集し皆で話し合い計画作成をしている	毎月モニタリングを行い、本人、家族の意向に加え、必要に応じて医療関係者の意見も参考に、全職員で協議し、介護計画を作成している。利用者の毎日の様子や何気ない言動、ケアプランに沿ったサービスの提供を具体的に記録に残し、評価や今後の課題に繋げ見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	D5表や支援記録などで共有し今必要な介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報収集と共有をして状況の変化に柔軟に対応できるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は交流が出来ないものの出来る事を暮らしの中に取り入れている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と週1回の訪看以外にも随時報告し今必要な医療が受けられる様支援している	1名を除いた全利用者が協力医療機関と契約し、月2回の往診を受けており、かかりつけ医や専門医への受診は家族支援を基本としている。協力医療機関の看護師と締結し、週1回の訪問で、主治医との連携や健康状態を相談出来る体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良等も含め訪問看護時は情報提供時には医師から直ぐに指示が頂けるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院中も病院と連絡したり病院に行き状況の書き人をして関係作りをしている。今は中止となっている病院が多く電話対応のみとなっている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で主治医、ご家族とホームで話し合いをしている	重度化や看取り対応に係る指針を整備し、入居時に利用者、家族に説明を行い同意を得て、状態変化や重度化の段階で再度、家族と今後の方針を共有している。事業所では医療機関への移行が殆どで、看取りの経験は無いが、それに近い状況は経験している。現在、終末期対応に取り組んでおり、職員は医師からレクチャーを受け、チームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等はスタッフ間で細めに話し合っている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡体制を変更。夜間を想定した訓練等を行い町内の方にも運営推進会議等でご報告をしている	年2回の夜間想定火災避難訓練、水害及び地震災害避難訓練、ケア場面想定訓練など自主訓練を行っている。非常災害時連絡リストに地域住民が加わり、一時避難場所として自宅使用の了承を得ており、備蓄品も確保している。	常に防災意識を高く持ち、避難訓練を重ねているが、職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域住民の具体的支援の要請に取り組む事を期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を大切にプライバシー確保や声掛けを行っている	ケアサービス研修、接遇研修を受け、トイレ誘導時には、節度ある距離感で利用者が認識出来る言葉かけに配慮しており、不適切な対応時では都度注意を促している。個人記録はイニシャルで表示している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	プランにも反映し働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペース、性格、希望等に沿って支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選ぶ事が出来る様声掛けの工夫や行事のお化粧など支援している			

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に盛り付けや調理を行い参加する事で食事が楽しみになる様支援している	日常食は栄養バランスを考慮した献立と食材が業者から届いている。月1度のお弁当の日や誕生会、行事食では利用者の要望に応え、ケーキ、寿司、バーベキュー、オードブルなども取り入れ、食べる意欲と満足感を大切に支援している。利用者は持てる力を発揮し準備を手伝っている。	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みを把握し食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に誘導見守りと介助を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ板を元にトイレの時間などを共有し声掛け誘導を行っている	利用者個々の排泄習慣を把握し、声掛け、誘導、見守りを行い、時には二人介助、同性介助も顧慮してトイレでの排泄を基本に支援している。夜間は睡眠の質向上を優先してベッド上でのオムツ交換も行っている。排泄用品の使用根拠を十分検討した上で快適に過ごせる様に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や牛乳の提供等個別に応じた対応をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の体調や気分など考慮し声掛けなど支援している	浴室は3方向介助可能型で、二人介助、同性介助も顧慮し、週2回以上入浴出来る様に努めている。現在は入浴拒否が無く、好みの湯加減でゆったりと寛ぎ、職員との会話も弾んでいる。身体状況や希望により、シャワー浴、足浴、清拭等も対応し、清潔な肌の持続に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援	体調に合わせて休息して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別で嚥下状態を考慮し錠剤、粉砕のお願いをしている。薬の内容や変更も皆で共有し確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の楽しみを見つけ日々の生活で楽しんで頂きハリや安心、気分転換をして頂ける様支援している		

自 己 評	外 部 評	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事は今年については中止が多かった。その中で工夫して外気に触れる事が出来る様支援している	例年であればドライブを企画し季節を感じられたが、コロナ禍での外出自粛では遠出は難しく、近くの河川敷までの散歩、玄関先やベランダに椅子を用意しての日光浴で気分転換を図っている。また、屋内での季節行事やレク活動を工夫し、ストレス発散に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人で所定の場所に保管している。紙やおこずかい帳を利用し大切さや楽しみの支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話の仲介をしたいはがきのやり取りをして頂いている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に季節ごとに飾りを作成して楽しんで頂いている。室温や湿度の常に把握し居心地が良く過ごせるよう工夫している	外見は木の温もりを感じさせるログハウスタイプの建物で、屋内はバリアフリー設計、床暖房を設置し、全室内心地よい暖かさである。現在はコロナ禍でマスク・消毒薬・検温器も用意し予防に徹している。玄関入口から季節のハロウィンがコーディネートされ華やいだ雰囲気を感じられる。リビングには利用者の作品や幼稚園児の作品が飾られ、神棚や観葉植物なども利用者にとっては家庭的な安らぎ感となり、寛ぎの空間を作り上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々がお気に入りの場所でくつろげるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い思いにご本人やご家族が家具などを配置されている。ご本人にとって我が家でのくつろぎの場になる様工夫している。	居室の壁は木目調で木の持つ暖かさが感じられ、設置されているクローゼットやオシャレな棚は効率良く整理整頓し易い。ベットが用意され、利用者は筆筒や椅子、テレビ、仏壇等を持ち込み、自作品の油絵や家族写真、好きな皇室写真などを飾り、それぞれに落ちつける空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きく変化なくいつもの暮らしが出来る様工夫している		